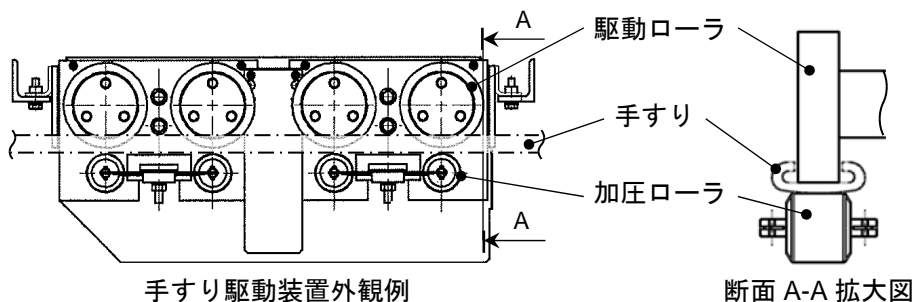


ローラ駆動方式における手すりガイド長さの設定及び状態判定方法

1. 対象となる手すり駆動方式

本資料における手すりガイド長さの設定及び状態判定方法は、図1のように手すりを対向する2つのローラ（駆動ローラ、加圧ローラ）で挟み込んで駆動する手すり駆動方式（ローラ駆動方式）が対象となります。



(注) 駆動ローラへの動力伝達方式やローラ数など図と異なる構造も存在しますが、対向する2つのローラで挟み込む方式であれば同様に本資料の対象です。

図1 ローラ駆動方式

2. 手すりガイド長さの設定方法

手すり帰路下曲部の可動ガイド固定ボルトを緩め、可動ガイドの長手中央付近を200Nの力で押し下げた位置から、可動ガイド端部を長手方向に基準寸法Aだけ戻した位置で固定することで、手すり長さに手すりガイド全長を合わせて下さい。設定後、3項の「手すりガイド長さの設定状態判定方法」に従って判定し、必要に応じ再調整して下さい。ただし、基準寸法Aだけ戻すことが設定の基本ですので、戻す寸法を不必要に減らさないで下さい。

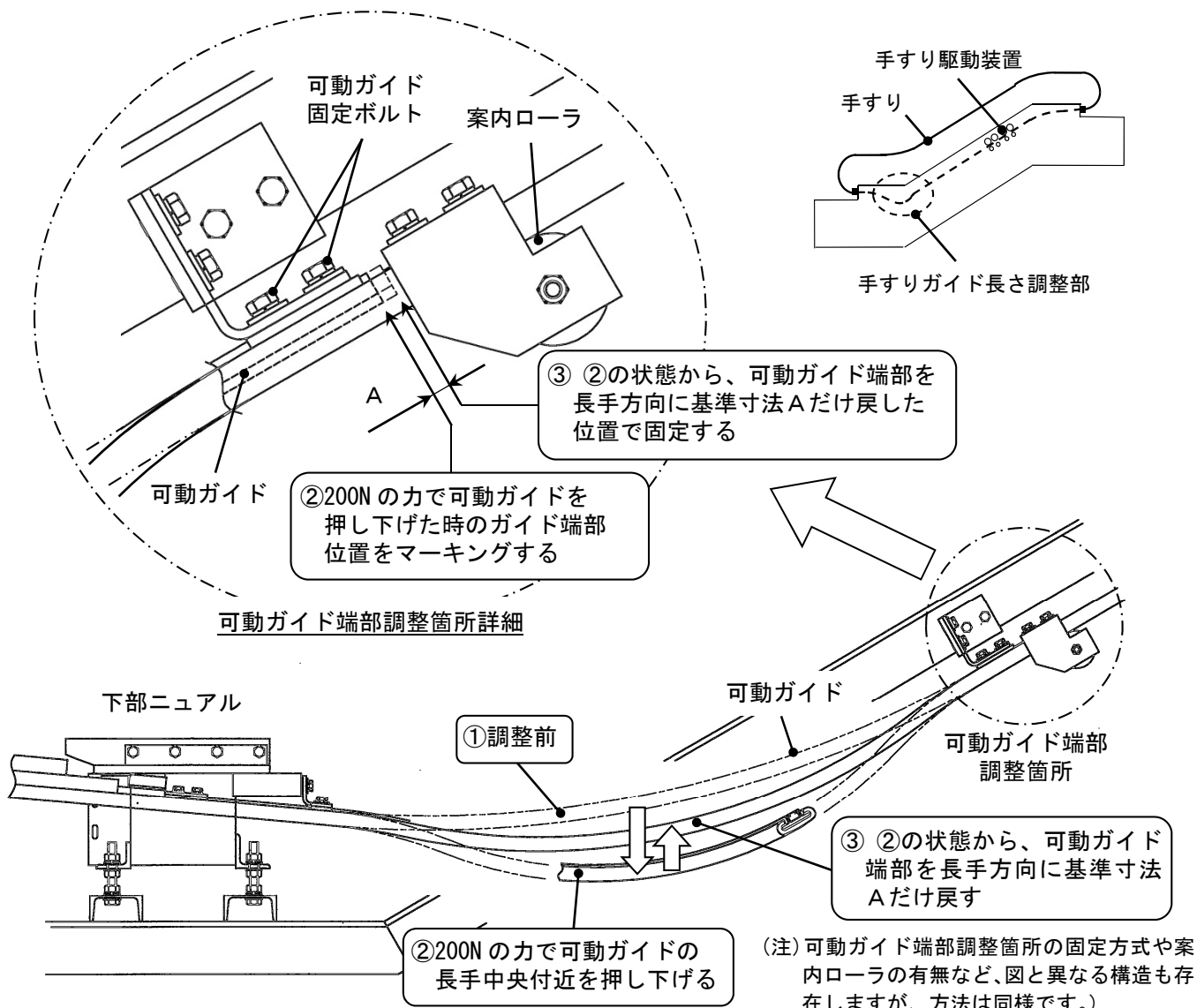
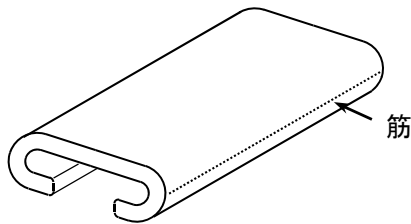


図2 手すりガイド長さ調整部における設定方法

表 1 基準寸法 A

手すり材質 [図 3 参照]	ニュアル部 仕様	帰路直線部の案内ローラ設置有無	
		有り	無し
ウレタン 手すり	樹脂製ガイドのみ	5 mm	10 mm
	樹脂製ガイド+ コロ又はリング付		5 mm
ゴム 手すり	全タイプ		10 mm



手すり両側面にある成形跡の筋が手すり全周にわたって存在するかどうかで、手すり種類は判別可能です。

ウレタン手すり … 一部範囲にのみ存在
ゴム手すり … 手すり全周に存在

図 3 手すり材質の見分け方

3. 手すりガイド長さの設定状態判定方法

手すりガイド長さ設定状態は、下記要領で判定して下さい。図 4 のような外観を持つ R 形エスカレーターのみ確認方法が異なりますので、注意して下さい。

対象機種	R 形エスカレーター以外	R 形エスカレーター [図 4 参照]
適正状態 確認方法	下降運転・停止後、上部ニュアルの図 5 に示す範囲 B の中に、手すり耳部と手すりガイド裏面の接触が無い範囲が存在することを手すり表面側からの触診で確認する。	上昇運転・停止後、下部ニュアルの図 6 に示す範囲 B の中に、手すり耳部と手すりガイド裏面の接触が無い範囲が存在することを手すり表面側からの触診で確認する。
不適切時の 対処方法	確認の結果、範囲 B 全体で手すり耳部と手すりガイド裏面が接触している場合は、設定状態が適切でない（手すりの張りが少ない）ため、再調整して下さい。	

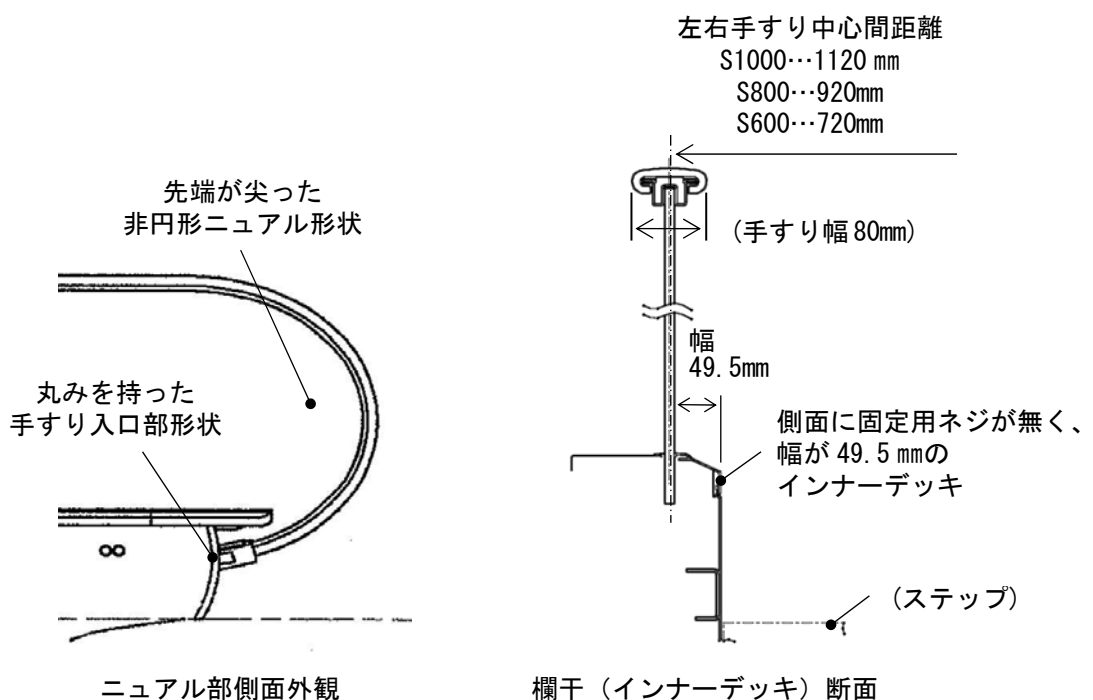


図 4 R 形エスカレーターの見分け方

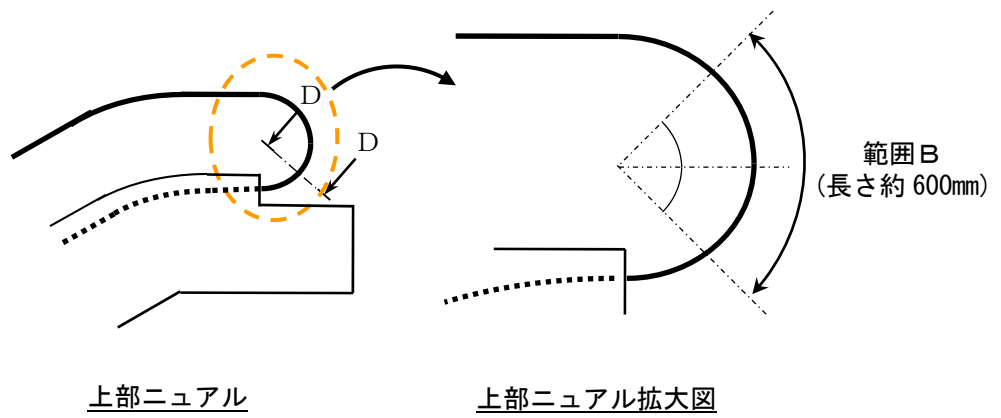


図5 手すりガイド長さ設定状態確認範囲
【R形エスカレーター以外】

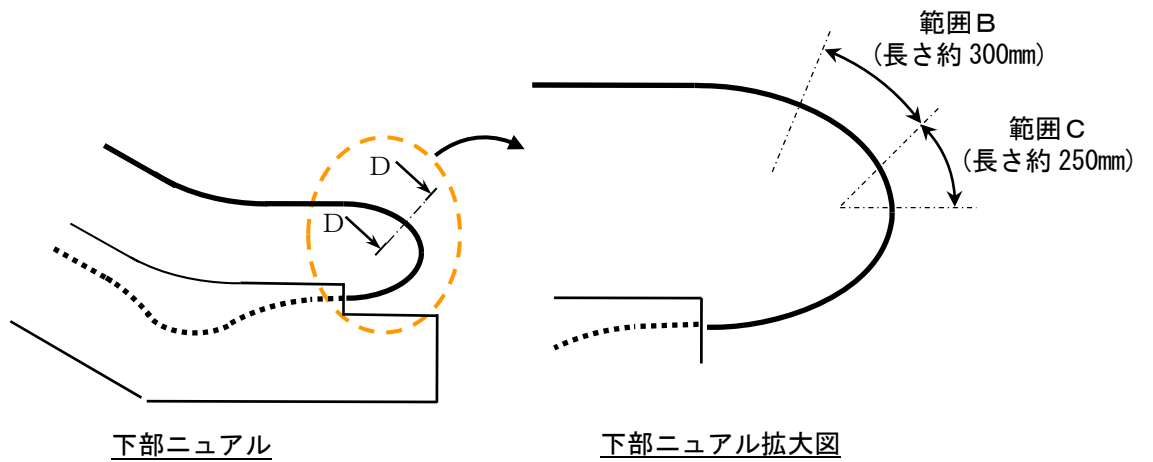


図6 手すりガイド長さ設定状態確認範囲
【R形エスカレーター】

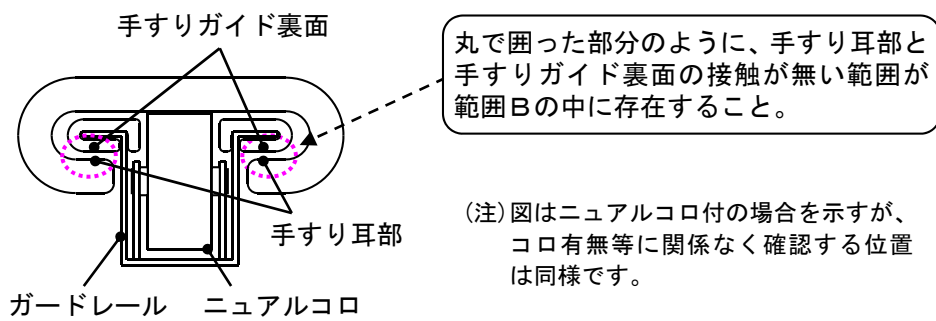


図7 ニュアル断面図 (図5、図6の断面D-D)